

科目名			免疫学特論		
科目責任者			長 田 良 雄 (免疫学・寄生虫学 教授)		
担当者			吉 田 安 宏 (免疫学・寄生虫学 准教授)		
開講時期:			1～2年次	単位数:	6 単位
				時間数:	90分× 45 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 生体が維持されていく上で必要な種々のバランスの中で、特に免疫システムが担っている役割を学習し、免疫システムの誤作動により引き起こされる疾患について、細胞・分子レベルでの誘導機序を理解する。 行動目標 (SBOs) 1) 自然免疫に関与する細胞群、また関連因子を概説できる。 2) 獲得免疫に関与する細胞群、また関連因子を概説できる。 3) パターン認識受容体に関して、その種類と役割を説明できる。 4) 抗原提示に関与する分子群の役割を説明できる。 5) 免疫システムにおける自己－非自己の認識機構とその不全について総括できる。 6) 免疫担当細胞の分化誘導機構を転写因子の観点から説明できる。 7) 過敏症の発症メカニズムを分子レベルで概説できる。 8) 自己免疫性疾患の発症メカニズムを分子レベルで概説できる。 9) ガンにおける免疫監視機構を概説できる。 10) 免疫細胞におけるシグナルトランスダクションを概説できる。					
● 評価方法		プレゼンテーション60%、質疑応答40%等で総合評価する。			
● 参考文献		講義の中で必要に応じ紹介する。			

授 業 項 目 (内 容)
自然免疫の機構
獲得免疫の機構
パターン認識受容体の種類、およびその分子構造
最新のサイトカイン・ケモカインの動向
免疫担当細胞の種類と新しい概念
免疫担当細胞の分化誘導
アレルギー誘導機構
自己免疫疾患の発症機構
ガン免疫
免疫学的検査法の原理と応用
受容体からのシグナル伝達
ノックアウトマウスの作製とその機能解析
抗体医療の現況と免疫学的背景
腸管免疫学の詳細
環境汚染物質による免疫毒性機構